

ハロー フレンズ

ファイセック

FICEC

発行

ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2012年 8 月号 (隔月刊) 第 121 号

ふじみの国際交流センター 第 14 回 通常総会が開催されました

●日時：平成 24 年 6 月 10 日 (日) 午前 10 時

●場所：ふじみ野市大井 2-15-10 うれし野まちづくり会館 3 階ホール

石井理事長の挨拶で始まり、各事業担当者より活動報告。全ての議題を原案通り可決し、無事終了いたしました。お忙しいところご出席いただきました会員の皆様、誠にありがとうございました。

第 1 号議案 平成 23 年度事業報告及び収支決算報告

第 2 号議案 平成 24 年度事業計画及び収支予算案

第 3 号議案 理事選任



皆様のご支援のおかげで、今年 15 年目を迎えることができました。5 月 19 日の国際フェスティバルを皮切りに、今年度も力を合わせて外国人の生活支援と多文化共生社会実現を目指して活動していきます。

今後ともふじみの国際交流センターの活動にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ふじみの国際交流センターのサービス



ふじみの国際交流センターでは様々なサービスを行っております。

翻 訳	■一般文書	A4 1ページ (11ポイント、行間1行、約800字)	翻訳料 3000円～
	<ul style="list-style-type: none"> ・対応言語英語：(中国語、韓国語、フィリピン語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語) ・別途、翻訳料の10%の事務経費がかかります。 ・レイアウトが必要となる場合は別途レイアウト料金がかかります。 ・難易度によって翻訳料は異なります。ご相談ください。 ・分野や内容によっては、対応できない場合があります。 		
	■出生証明、独身証明	A4 1ページ 対応言語：英語	翻訳料 1000円～

通 訳	■ふじみの国際交流センターまで来ていただければ無料で通訳いたします。 通訳者の都合で日程が変更する場合があります。事前に予約をしてください。					
		月	火	水	木	金
	AM.	英語	英語	英語	英語	英語 中国語
	PM.	ポルトガル語	英語 フィリピン語	中国語	中国語	英語 フィリピン語
■指定場所での通訳は、半日 5000円と別途交通費がかかります。 分野や内容によっては、対応できない場合があります。						

●翻訳・通訳 ボランティアを募集しています。(登録制)

語学力を生かして、公的な書類や冊子、当法人出版物の翻訳と生活相談などの通訳をしていただける方を募集しています。翻訳・通訳言語：英語、タガログ語(英語を介しての翻訳も可)、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語(お申し込み、お問い合わせ 049-256-4290)

講 師 派 遣	■各種講座に適した講師を派遣いたします。	
	<p>出前講座 ワークショップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在日外国人の実状 ・地域に暮らす外国人 ・外国人の人権 ・食料自給率40%を考える ・DV被害者と課題 ・ボランティアを楽しむ ・女性の生き方 <p>料金 10,000円～別途交通費 ご相談ください。 ふじみの国際交流センターまで来ていただければ費用はかかりません。</p>
	<p>体験コーナー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国料理に挑戦 ・Let's enjoy English ・中国語初めの一步 ・外国人と日本語で話そう ・外国の子育て・外国の教育 ・外国の子どもの遊び <p>料金：内容・予算に応じて相談。</p>



日本語教室では茶摘を体験



「先生、一芯二葉（いっしんによう）ってなに？」初夏を告げる好天の下で開始された茶摘み体験。

そのスタートで、茶園「丸康園 {丸康園}」オー

ナーによる茶摘みの方法に疑問を持った参加家族の子どもから質問です。「新芽の先から2枚の葉のついたところまでを摘み取ることです」

6月3日（日）こんな会話で始まった日本語教室恒例の“茶摘み体験”は、新緑が目にもまぶしいお茶の芽を、配られた袋一杯摘める楽しいイベントです。ビニール袋がはち切れるほどになると、そろそろお昼です。焼き団子が配られ、珍しいお茶のてんぷらを食べ放題で堪能しました。のどの渇きには、氷でゆったりとしみださせた冷たい緑茶が出されます。その後、高価なお茶となった手もみ茶作りの体験から、機械化されたお茶ができるまでを学び、外国人にとり初体験ばかりのほぼ4時間を楽しみました。

書籍10万円分を寄贈いただきました！

当センターの理事である、日本社会事業大学准教授・工学博士である山口幸夫先生は、ソーシャルワークの研究で高名です。このほど先生の紹介でライオンズクラブと凡人社（日本語教材等の出版販売会社）のご厚意によって、10万円分の日本語教材用書籍を寄贈していただきました。

日ごろセンターの日本語教室は教材の開発・購入に腐心しながらも15年間の蔵書を誇れるコーナーを

持てるようになっていました。しかし、高価な辞典関係だけはなかなか揃えられなかったそのスペースに、期待が詰まった書籍が並ぶことになったのです。

日本語ボランティアの実体験から必要とされる合計36冊の書籍を洗い出し、購入をお願い致しました。今後は豊かな気持ちで学習者の指導にあたれることでしょう。寄贈いただいたご関係の皆さまに改めて御礼申し上げます。

外国語ページにアクセスの多いホームページ

ふじみの国際交流センターのホームページでは、活動内容や実施サービスの紹介などの情報を掲載していますが、「国際交流」や「外国籍市民のサポート」が活動テーマだけに、外国語のページや情報もかなり充実しています。

●6か国語で行政手続きなどを紹介

「外国籍市民のための生活ガイド」は、ふじみ野市、富士見市、三芳町という自治体の協力を得て、外国籍の人たちが日本での生活で必要となる行政手続き、教育、医療、災害などあらゆる生活情報を掲載したページ。日本語が十分にできない方のために、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語、そして日本語と、6か国語で作成されたペー

ジとなっています。

●「インフォメーションふじみの」PDF版

「インフォメーションふじみの」は、センターが創立して以来、15年間にわたり1ヵ月も欠かさずに発行してきた外国籍市民のための生活情報誌。毎号、日本語、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語の7か国語で発行されていますが、そのPDF版がホームページに掲載されています。

センターのホームページには、毎月、28,000件ほどのアクセスがありますが、そのうち「生活ガイド」が約8,000件、「インフォメーション」が約12,000件と、7割以上を占めています。

外国ルーツの子どもたち

日本語の勉強と居場所づくり

藤林 美穂

小学校、中学校で、今はどのクラスにも外国にルーツを持つ子がいるのが当たり前になりました。生まれた時から日本にいる子の場合は日本語の問題はとりあえずないでしょうが、途中から日本に来た子たちは、本当にたいへんです。母国から呼び寄せられた子どもたちにとって、日本語を学ぶ機会があるかどうかは、その後の人生を左右する一大事です。

私が昨年出会った女の子は、お母さんに呼び寄せられて15歳でフィリピンから日本にやってきました。当然、日本語はまったくできません。この親子はたまたま東京都内に住んでいました。いろいろ調べて一番近い夜間中学に相談し、入学することができました(残念ながら、埼玉県には夜間中学がありません)。

夜間中学は、かつては昼間働きながら夜勉強する勤労学生のためのもの、というイメージでしたが、今や外国籍の子どもたちの学習のためになくてはならない場所になっています。私も彼女の入学式にちょこっとだけつきあったのですが、新生入生はほぼ全員外国人の子どもたちでした。夜間中学では、日本語のできない生徒のためにほとんどマンツーマンのようにして日本語を勉強させ、他の教科も補講をしてくれるので、まったく日本語を知らなかった子も数か月すると簡単な会話や読み書きができるようになります。熱心な先生たちに、本当に頭が下がる思いです。

夜間中学に入ることができた子どもたちも、次のステップである高校入学ではまた苦労しま

す。さらに大学へ入るとなると、経済的な問題もあってなかなかハードルが高くなってしまいます。

中には、日本でビザを持っているが大学は母国で入る、という人もいます。言葉の問題もクリアできるし、通貨格差があるので、日本で勉強するよりは費用の負担が少なくて済むわけです。しかし日本に住んでいないので、ビザの更新をしようとして入管に注意される、という悩ましい事態になります。今まで3年ビザが出ていたのに1年になってしまった、という相談を受けたことがあります。結局、大学を出たらまた日本に戻って就職する予定です、ということでビザの更新はできたものの、母国の大学を出た若者が日本で就職活動するのは相当難しいだろうなあ、と思いました(そもそも日本でどう就職活動すればよいのか、について母子ともに知識がありません)。

10代で日本にやってきた子どもたちを見るにつけ、この子たちがなんとか日本で居場所をみつけて生きていけることを願わずにはいられません。

●筆者紹介

行政書士(ライフ行政書士事務所)。NGOで働いたり、フィリピン人支援団体でボランティアしたりした後、行政書士開業。毎日いろいろな国から来たいろいろな人の話を聞いて、「在日外国人」の多様性に、びっくりすることの連続です。

記事訂正のお知らせ 本誌6月号

- 7ページ 中国語教室の料金(誤)300円/1か月 → (正)300円/1回
- 8月は中国語教室は休講です。9月から通常通り毎週金曜日10時から開講します。

センターのおかげで再び頑張れるように

近沢エルザ

1991年にブラジルから、先祖が生まれた国、日本へ来ました。お弁当屋さんで15年仕事を続けましたが手を痛め、2年の間に四回も手術を受けました。手に力が無くなり、痺れが続き、突然仕事が出来なくなり、鬱病に罹り、2年間、夜だけスーパーに行ったりして、引きこもり状態でした。鬱病、仕事無、人間が怖くなり、誰にも会いたくない、泣くばかり、とてもストレスが溜まって大変でした。

そこに、市役所の人からふじみの国際交流センターの事を教えてくれました。とても不安定な状態で、2010年にセンターに向かいました。最初は、ボランティアの人たちに、漢字を教えるに専らしていました。2011年から、携帯電話通訳の仕

事をする事になり忙しくなりました。もう泣いている場合ではありません、誰かが私を頼りにしてくれているから、頑張らなくては…月曜日は、ポルトガル語の通訳をセンターでしています。一緒にお当番をやっている森田さんに凄くお世話をかけています。

センターのスタッフは皆優しく、心を癒されています。沢山の外国人にセンターを訪ねて欲しいです。遠く自分の国を離れている方には、センターは2番目の家族が待って居ますから、ぜひ足を運んでくださいね！スタッフの皆さんが、貴方の涙が流れないように、助けてくれますから…。センターに来れば、明日が有ります！

見送りの三振より 空振りの三振

パートII

石井 ナナエ

「フィリピンで暮らしていたが母が死んで一人になった。日本の父と暮らしたいので探してほしい」と22歳のフィリピン国籍の青年が訪ねてきた。彼そっくりの日本人男性がフィリピン女性の肩を抱きうれしそうに笑っている写真と、出生証明書を持っている。父と言っても会ったこともなければ住所も電話番号も知らない。

さっそく、市民ネットワークJFCに電話をした。父親を探してくれるNPOである。

「出生証明書に父親の名前が書いてあっても法的な証拠にはならない。フィリピンに戻って入管に行き、その男性の出入国記録証明書を貰いなさい。それによってパスポート番号が判ります。それをマリガヤハウスというJFCのフィリピン事務所に届けなさい。連絡を受けた日本の事務所が弁護士を頼み、父親の住所を探します」と言う。

「近所からお金を借り集めてやっと日本に来たのに、すぐ帰れなんて」がっくりと肩を落とし、彼はさっそくと帰って行った。

翌日、小学生の2人の子供を連れてフィリピン女性が『お父さんと一緒に日本で暮らしたい』と来所してきた。3人を呼ぶ為に書かれたビザの申請書には「私の2人の子供とその養育者のために入国を許可してください」と嘆願書まで付いている。

その男性は毎月10万円を送金し、時々観光旅行に連れて行ってくれるという。

「私の言うことは聞いてくれない」という女性に代わって、男性に電話をした。内縁の妻が他人に相談したことに驚き、「余計なことをするな」と電話の向こうで怒鳴る。

『あなたがやさしい人であることはわかります。でも奥さんも子供も日本で暮らしたいと強く望んでいます。日本で暮らせるように認知だけでもしてくれませんか』と頼む。

「そんなことをしたら僕が妻に怒られる。妻は何も知らない。認知は絶対しない」と突っ張る。

男性のずるさを十分感じながら、何もできない悔しさに涙が出た。

韓国の外国人支援団体を訪問

「ヒューマンタッチ外国人センター」

藤林 美穂

韓国訪問三日目。ソウルから電車に乗って2時間ほど離れた所にある天安に向かいました。ここは、工業地帯で外国人労働者の数も多いところです。まず、案内してくれる金ソナさんが何度も訪問しているという「ヒューマンタッチ外国人センター」を訪ねました。代表のイ・チョンホンさん、センター長のソク・チョンリムさんのお話を伺いました。ここでは、外国人勤労者（ビザのない人も含む）、留学生、結婚して移住してきた女性（その子どもも含む）を支援しています。外国人の社会統合（生活全般、帰化など）に力を入れているそうです。帰化手続き支援のほか、外国人が韓国に定着するための教育プログラムを行っています。また、結婚移住女性のためのプログラムとして、韓国人夫と一緒に受講する父母教育、夫婦で映画を作り、試写会をして他の夫婦と問題を共有するなどの講座もあるそうです。

この団体はもともと政府の委託を受けて外国人支援活動を続けてきたのですが、最近行政による外国人支援施設ができ、そちらに予算が回されたために活動がままならない部分もあるということでした。

午後はその行政による外国人支援組織である天安外国人労働力支援センターを訪ねました。今まで訪ねた団体はすべて民間団体でしたが、今度は行政組織なのでちょっと雰囲気の違いがありました。でも、所長のイ・ハンボクさんは丁寧に活動について説明してくれました。支援センターは全国に7カ所あり、労働府から委嘱を受けて100%国費で活動しているそうです。主な事業は相談。11カ国語の通訳を用意して対応していま

す。また、語学やパソコンなどの講座、文化事業、医療・美容サービスなども行っています。こうした活動は2010年からスタートしたものです。天安は外国人住民の増加率が全国3位で、相談の需要も多いようです。相談件数は年間で78000件。利用者のうち一番多いのはスリランカ人、モンゴル人、ウズベキスタン人だそうです。外国人が就労して韓国にいられる期間は3年間と限られていますが、出国してまたすぐ戻って働くことも可能です。相談内容は、賃金不払いなど労働に関するものが多いということでした。ともかく、行政によってこのような相談機関が設けられていること自体、日本との違いを痛感させられました。

三日間という短い期間で、駆け足でいろいろな団体を訪ねました。民間団体にしろ、行政の組織にしろ、外国人支援のスケールが大きいこと、支援の仕組みを短時間で作り上げるそのスピードとエネルギーに驚きました。いつかまたぜひ訪ねてみたいと思っています。



左から 案内役のキムさん、山崎副理事、豊枝さん、石井理事長

活動報告

2012/6/7 携帯通訳者会議 10 総会、理事会 12.26 スタッフ会議 12 情報誌編集会議 28 理事会 14.28
パソコン教室 月（毎週）英語教室 木（毎週）日本語教室 金（毎週）中国語教室 土（毎週）子どもクラブ

7/5 携帯通訳者会議 7. 理事会 10.24 スタッフ会議 10 情報誌編集会議 5.19 パソコン教室 月（毎週）英語教室 木（毎週）日本語教室 金（毎週）中国語教室 土（毎週）子どもクラブ

大井日本語クラス・親子日本語教室のボランティア募集

地域に住む外国人に交流をとおして、相互理解を深め、日本語の習得や日本文化と習慣を知ってもらう教室を、ふじみの国際センターとの共催で行っています。日本語を教える経験がなくても大丈夫です。お気軽においで下さい。皆様のご協力をお願いいたします。場所：大井中央公民館 情報交換室

大井日本語クラス：毎週木曜日 午後7時30分から9時30分

親子日本語教室：毎週土曜日 午後1時30分から3時30分

夏休み国際子どもクラブのご案内

7月8月の夏休み期間、学校の宿題や日本語の勉強などサポートします。

対象：小学生・中学生・高校生 日程：毎週 水・木・土 10:00～12:00（8/15 除く）

上福岡七夕まつり

約300本の竹飾りで駅周辺が彩られます。ふじみの国際交流センターでは、スリランカ料理・フィリピン料理・トルコ料理を出店します。ぜひお越しください。

日程：8月4日(土)13:00～5日(日)21:00まで 場所：福岡中央公園

「7か国語による生活情報クリップ 家族編・教育編」が完成しました

さまざまな生活問題を抱えている外国の方にとって、この本が解決の糸口となることを願って「7か国語による生活情報クリップ」を編集しました。また、外国人を支援する日本の方にも読んでいただき、問題解決への一助となることを願ってまいります。この冊子は昨年、埼玉県国際課との協働事業として作成した「ダイジェスト版」に続くもので、今年は会員の方からの寄付をいただき「家族編」「教育編」の2冊を作成しました。今後もシリーズ化して、全10巻を目標に発行を予定しています。これまでふじみの国際交流センターに持ち込まれた生活相談の中から特に多い相談や難しい相談を取り上げ、問いに答える形となっています。

お知り合いの外国の方や外国人支援の関係者のみなさんに、ぜひご紹介ください。

本文より「問い」の抜粋

◆日本人の夫が亡くなりました。遺産分与で夫の前妻の子どもと話し合っていますがうまくいきません。〔中国・女性〕

◆子どもを中国から呼び寄せました。中学3年の学齢ですが、日本語がわからないので中学2年に編入させてくれませんか。〔中国・女性〕

◆日本人の夫と別居して3ヶ月が経ちました。離婚の不受理申請を出しておけばこのまま日本にいられますか。〔フィリピン・女性〕



センターの活動をご支援ください 会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

会員、賛助会員にはこの機関誌をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
口座名：ふじみの国際交流センター

外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00

電話：049-269-6450

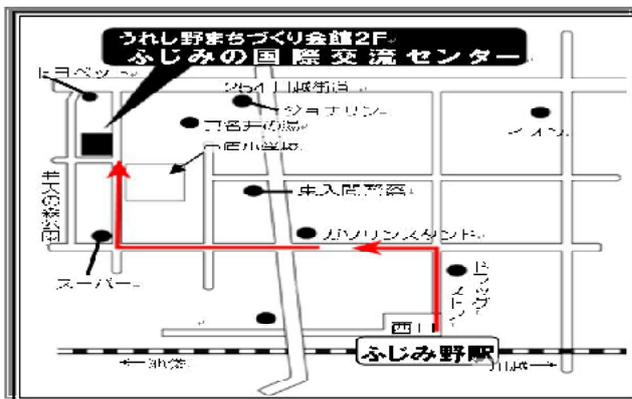
困っている外国人の方がおられたら
センターをご紹介ください。

ご寄付をいただいた方々

ご支援ありがとうございます

●2011年4月～（50音順・敬称略）

イオン(株)大井店、国際ソロプチミスト埼玉、立麻医院、東入間地区遊技業防犯協力会、阿澄康子、穴沢エミリン、新井順子、荒田光男、石井ナナエ、市川孝治、岩田仁、上島直美、太田原裕、大西文行、葛西敦子、加藤久美子、金子忠弘、神田順子、木場ひろみ、駒形一夫、権田貴久子、白砂正明、菅山修二、鈴木譲二、関ニーランティ、武田和子、立麻肇子、内藤忍、中嶋恵津子、中村禎作、長谷川正江、浜本由里子、百瀬紀子、森和也、森田信子、山畑博子



サービス料金表

ふじみの国際交流センターでは、センターの設備や、会員・スタッフの技能により、様々なサービスを行っております。ぜひ、ご利用ください。

種別	料金	対象
印刷機	マスター（製版代） 1枚100円 印刷代1枚1円	市民団体 個人
コピー機	1枚10円	
製本機	A4判1冊50円	
折り機	無料	

種別	内容	料金
講師派遣	国際理解教育	3,000円＋交通費
	外国料理教室	5,000円（材料費別途）
	語学教室	内容・予算に応じて相談
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	
編集・出版 ホームページ	多言語による情報誌・ガイドブック、ホームページの制作	1枚5,000円
	日本語によるチラシデザイン（A4判）	
翻訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語、タガログ語、スペイン語、タイ語、ベトナム語	婚姻関係、ビザ申請、履歴書 A4判1頁、40字・30行 1枚1,000円
	その他の文書	A4判1頁、40字・20行 1枚3,000円より
通訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語、タガログ語、スペイン語、タイ語、ベトナム語	半日5,000円より＋交通費

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0053 埼玉県ふじみ野市大井2-15-10

うれし野まちづくり会館2階

Tel：049-256-4290 Fax：049-256-4291

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。